

第 1 3 3 2 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成 2 7 年 6 月 4 日 木曜日

開会 1 4 時 3 0 分 閉会 1 6 時 0 0 分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	奥野 史子
	委 員	秋道 智彌
	委 員	鈴木 晶子
	委 員	星川 茂一
	委 員	高乗 秀明

4 欠 席 者 なし

5 傍 聴 者 2 人

6 議事の概要

(1) 開会

1 4 時 3 0 分, 教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1 3 3 1 回京都市教育委員会会議の会議録について, 教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件, 報告 1 件

イ 非公開の承認

報告 1 件については, 訴訟及び不服申立てに関する案件であり, 京都市教育委員会会議規則に基づき, 非公開とすることについて, 全委員の承認が得られた。

ウ 議決事項

議第 5 号「京都市立洛陽工業高校跡地における新しい普通科系高校の創設に関する基本方針」について

(事務局説明)

○三宅学校指導課担当課長

平成28年4月の京都工学院高校の開校予定に伴い、洛陽・伏見工業高校の在校生は開校初年度は両校の現在地に通学するが、開校2年目となる平成29年度には京都工学院高校の校地に移り、学校生活を送ることとなる。

これにより平成29年度以降に活用が可能となる洛陽工業高校の跡地に関して、平成26年8月に洛陽工業高校同窓会である洛陽京工会から「洛陽跡地は学校施設として活用してほしい」旨の要望書が提出された。あわせて、同年11月には、塔南高校の「同窓会」、PTA 役員経験者等で組織されている「愛校会」、「PTA」、「塔南高校」の4団体から「校舎の老朽化や交通の利便性の解決のために、洛陽工業高校跡地へ塔南を移転させてほしい」旨の要望書がそれぞれ教育長へ提出された。

これらの要望をふまえ、洛陽工業高校の跡地に塔南高校を移転することにより、塔南高校を取り巻く様々な課題が解決でき、さらには、新設の学校として、充実した教育環境の下で最先端の高校教育を展開できるようになると考えている。

本日、「基本方針（案）」が議決された場合、今後、次代を担う新しい普通科系高校の教育内容や学校規模、施設設備についての具体的な検討を進めてまいる。

まず、塔南高校を取り巻く課題について、大きく3点説明する。

1つ目が立地条件である。塔南高校は最寄駅である JR 西大路駅から徒歩で20分程度のところに位置しており、また、最寄停留所では1時間に1本程度しかバスが停車しないなど、交通の利便性は良いとはいえず、結果的に全生徒の95%が自転車ないしは徒歩で通学している。

2つ目は、耐震化の問題である。すべての普通教室、職員室を含め7割程度が補強工事を要する建物となっており、また校舎敷地に余裕がないため、野球部が使用しているグラウンドの半分程度を使用して1年半ほどプレハブを設置する必要がある。具体的には、現在第1グラウンドで、保健体育の授業と野球部、テニス部が利用しており両部とも公式戦での利用もしているが、このグラウンドにプレハブを設置した場合、野球場部分の半分以上を利用することとなり、部活動に多大な影響が生じる。また、築50年以上の建物であるため、耐震化工事をしたとしても近い将来建替えが必要となる。

3つ目は校舎面積の問題である。現在市立高校9校で最も狭隘な状況にあり、増築を行うとしても、校舎敷地に余裕がないため、グラウンド等を建物敷地として活用するなど教育活動への影響は大きいものとなる。こうした課題を解決するためにも洛陽工業高校跡地の活用は1つの有効な方策だと考えている。

続いて、基本方針の議案本体についてである。

基本方針の考え方と方向性については、先述の関係団体からの要望や塔南高校の課題をふまえるとともに、塔南高校が昭和38年にそれまで普通科、工業科を併置していた洛陽高校、伏見高校の両校から普通科生徒を受け入れる形で設立されたものであり、洛陽工業高校と非常に深いゆかりがある。こうしたことから、洛陽工業高校の跡地に塔南高校を移転・再編し、新しい普通科系高校を創設してまいりたいと考えている。

次に、「目指す生徒像・学校の基本コンセプト」についてであるが、新設校においては、日本が目指す科学技術イノベーション立国を見据えるとともに、教育界をはじめとする多様な分野で活躍する生徒を育んできた教育風土をしっかりと引継ぎ、多様な分野で「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とする。併せて、地域や企業、小・中学校と連携した教育実践や生徒の主体性や自律性を育んできた教育風土を継承・発展させ、学校教育と実社会とのつながりを重視した教育活動を転嫁し、「国際的な視野を持って主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要

な力」の育成を目指した学校づくりを行ってまいりたいと考えている。

目指す生徒像としては、

- ① 自らの将来像を描き、その到達に至る道筋と達成すべき課題を明確にして、目標の実現に向けチャレンジし続ける生徒
 - ② 在校生はもとより、小・中学生や地域の方々等、世代や立場を超えた人々とも積極的に交流し、他者と協働して活動できる力を培い、多様な価値観や生き方を学びながら、自己の成長につなげることができる生徒
 - ③ 国際化や情報化の進展する社会において、地域や社会の課題を多角的にとらえる視野を育み、科学技術分野や教育分野をはじめとする多様な分野で社会に貢献する気概を持って、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向けて行動し、社会の発展に寄与することのできる生徒
- 以上の3項目を考えている。

また、そうした生徒を育むため、学校の基本コンセプトとして、

- ① 「生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校」

学習活動はもとより、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において生徒が自発的に、意欲をもって全力で取り組める環境を提供する学校

- ② 「地域に貢献し地域とともに発展する学校」

地域の小・中学校との連携事業を継承・発展させるとともに、地域でのボランティア活動や伝統行事などに生徒が積極的に参画することを通して、地域の発展に貢献するなど、地域と共に歩む学校

- ③ 「生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校」

生徒が成りたい自分を描きながら、夢や希望を持って学校生活を送れるよう、個の可能性を最大限に引き出し、その実現に向けて、一人一人を徹底的に大切にする学校

を考えている。

続いて、「教育構想の具体化」については、先述の「目指す生徒像」をもとに「学校の基本コンセプト」を具体化するため、後述の「検討の観点」をもとに、教育課程のあり方や生徒の活動のあり方、学校体制、それを実現する学校の規模や施設設備のあり方について、検討していく。

「検討の観点」とは、

- ① 生徒が主体的・協働的に学習する授業への質的転換や高大接続改革など、国での教育改革の方向性を見据えた魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方、生徒会活動や部活動など生徒活動の在り方
- ② 小・中学校や地域団体をはじめ、地元企業や大学と連携した教育活動の在り方
- ③ 多様な分野において社会で貢献できる人材の育成に向け、生徒のキャリア発達を適切に支援し、多様な進路希望を実現する学校体制と指導の在り方
- ④ 新しい教育活動を展開するにふさわしい普通教室や特別教室、ICT 機器をはじめ、幅広い学習活動や部活動を展開するための施設・設備や学校規模の在り方である。

今後の予定については、中学校、高校の現場の意見または、保護者の目線からのご意見を頂戴し、また、地域の方や学校に関係する方々からの意見もお聞きしながら、今年の秋頃を目途に「中間まとめ案」を作成し、その後、市民意見募集を経て、今年度中には「まとめ」を作成する予定である。

(委員からの主な意見)

【秋道委員】生徒が自転車で通行する西大路通りはトラック等の通行量が非常に多い。また 6 月 1 日から改正された道路交通法の改正に伴い、自転車における交通安全対策を学校はしっかりすること。また、学校の基本コンセプトに「国際的な視野を持って」とあるが、この「国際的」が何を示すのか具体的に検討すべき。地域や企業、大学とも連携する中で、「国際的」が何かを考え、具体的な取組を検討し、それをカリキュラムに組み込むところまで議論してほしい。具体的な取組を生徒に提示することで、生徒がやる気を持てるような仕組みを検討してほしい。

【事務局】検討プロジェクトでもしっかり議論していく。

【鈴木委員】移転再編後、生徒増となれば、自転車通学する生徒も増えるのではないかと。そうすると洛陽の地域の方も困惑される可能性もあるが、シミュレーションはされているか。

【事務局】JR 西大路駅から近くなるため、自転車通学する生徒はあまり増えないと見込んでいる。また、今後は中学生の数も少子化の影響により減少していくことから、開校時の規模は大きくならないと推測している。

【鈴木委員】洛陽や塔南の地域の方々の方々の年齢構成やニーズにはどのような特徴があるのか。また、「学校の基本コンセプト」等の説明の中で「地域に根差した高校」、「ボランティア活動」といった内容があった。それらを新校で具現化するのであれば、生徒のいる保護者のみならず、保護者ではない地域の方々のニーズも十分に拾い上げられるような工夫をしてほしい。

【事務局】洛陽の地元である「唐橋地区」、塔南の地元である「祥栄地区」とともに年齢構成は市内平均と変わらない。また、小中学校のような「学区」が無い高校においても、地域の方々に受け入れられないと教育活動もままならない。今後はプロジェクトにおいても地域のニーズをいかに拾い上げていくか検討していく。

【奥野委員】新校の名称はどうか。また、5 月 30 日（土）の京都工学院の説明会は大盛況であった。中学生は最先端の学習を受けられることや、特に女子生徒は制服のデザイン等に魅力を感じており、新校においても、子どもたちがこの学校で学びたいと思えるような魅力的な学校となるようお願いしたい。古くからの塔南の良さや洛陽の地域のアイデンティティをくみ取り、みんなに愛されるような学校をつくってほしい。洛陽の跡地に新設するのであれば当然洛陽の地域の方々には様々な思いがあるであろう。ぜひ地域にも愛されるような学校づくりをお願いしたい。

【事務局】新校の名称についてはこれから議論していく。また、洛陽京工会の要望書にも「洛陽工業高校のスピリットを継承して」という文言があるように、こうした趣旨も勘案しながら検討していく。

【星川委員】「新しい普通科系高校」ということに意味がある。今回の移転・再編は塔南高校がさらに発展するための良い機会である。生徒や地域の方々から「良い学校ができた」と言われるよう、他校の実践も参考にしながら、大胆な発想を持って検討してほしい。今年度中に作成予定の「まとめ」には新校の学科やコース、規模等、どこまでの内容が盛り込まれる予定か。また、大まかなスケジュールとして、開校は何年度頃を予定しているか。

【事務局】「まとめ」の内容は、教育課程のあり方や教育活動の内容、また施設のあり方や規模等が含まれる予定。

【在田教育長】開校は最短で 33 年度を予定。29 年度に基本設計、30 年度に実施設計のイメージ。た

だし、埋蔵文化財調査の結果によっては、開校までに1年以上余分に期間を要する場合もある。

【高乗委員】塔南関係4団体からは「洛陽工業高等学校跡地に塔南高等学校を移転していただきたい」とある。新普通科系高校という新たな高校ができるイメージとずれがあるのではないかな。しっかり議論・調整してほしい。また、26年度から新しい高校教育制度が導入されたことに伴い、単に近所に住んでいるという意味の従来の「地域」という概念にとどまらず、新たな「地域」の枠組みを考え直す必要がある。プロジェクトにおいても「地域」とは何かについて議論してほしい。

【事務局】現在は大学進学だけでなく、社会性や公共性をもった高校生の育成が求められている。塔南高校の教育みらい科で培ってきた人材育成、洛陽工業高校で培ってきた科学技術分野で活躍できる人材育成のノウハウを踏まえ、また京都の人材育成を担うという観点からも、従来の「地域」という概念にとらわれず、新たに「地域」という概念を捉えなおしたうえで、今後様々な方から意見を賜りながら検討を進めていく。

(議決)

教育長が、議第5号に対して採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

その他、報告1件について、訴訟及び不服申立てに関する案件のため非公開

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告。

・5月20日 教育福祉委員会

・5月23日 池田小学校 小1男児交通死亡事故

象への恩返しプロジェクトキックオフ事業

・5月30日 京都工学院高校 学校説明会

・6月 1日 (養徳小学校プール事故関連)

「学校でのいじめや事故について考えるシンポジウム」に浅田さんの両親が参加

指定都市教育委員・教育長協議会

・6月 1日 小学校給食「和食推進の日」初実施(開晴小学校)

・6月 3日 第25回世界博物館大会(I COM 2019)の京都開催が決定

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

16時00分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長